

令和 7 年度東京都立松が谷高等学校学校経営報告

1 今年度の取組目標と自己評価について

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学力向上への取り組み

- (ア) 生徒の可能性を信じ、学校全体で「やればできる」というスローガンを掲げ、集会などで生徒への講話を実施し、生徒自身に「やればできる」という意識を持たせた。「意欲向上」生徒86.1%(昨年より2.4%増)、保護者80.5%(昨年より6.6%減)。今後も安心・安全な風土を醸成し、生徒の自己肯定感や自己有用感の育成に取り組む。
- (イ) 担任、学年、教科担当者、部活動顧問など、担当する生徒を丁寧に観察し情報共有の徹底を目指した。今後も、生徒を多面的に把握することで生徒の可能性を引き出し、生徒の自己肯定感の育成に取り組む。
- (ウ) 各教科で定めた「学力スタンダード」の達成に向けて指導内容、方法の改善を行うとともに、各教科・学年で小テストや週末課題等、生徒の家庭学習時間を増やす工夫をした。毎日家庭学習を1時間以上する生徒は31.1%(昨年より3.1%減)となった。生徒の自主的な学習意欲をどのように引き出していくかが大きな課題である。
- (エ) 生徒一人1台端末を有効活用した学習支援体制を推進するとともに、統合型校務支援システム及び定期考査採点・分析システムを有効に活用するなど教職員のデジタル技術の向上を図った。今後も効果的なICTの活用方法について検討していく。
- (オ) 探究委員会を中心に探究委員会と学年団が協力して「総合的な探究の時間」を計画的に実施した。自己の進路につながる学問的または職業的な課題を自ら設定して解決する力を身に付けさせ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図った。今後も「総合的な探究の時間」を計画的に実施していく。
- (カ) 全教科で言語能力向上を図り、図書館を活用した読書活動推進、大学入試や民間検定試験に有効な読解力・記述力向上、プレゼン能力育成等の授業実践を計画的・組織的に行なった。「読書活動推進」生徒89.4%(昨年より1.3%減)、教職員79.1%(昨年より10.6%減)デジタル化と紙をどのように併用させていくかが課題である。
- (キ) 数学と英語において習熟度別学習を実施し、生徒・保護者に学習への苦手意識の解消と学力向上の効果を実感させる取組を行った。「習熟度別・少人数授業の効果」生徒86.3%(昨年より8.3%増)、保護者82.0%(昨年より2.1%増)、教職員91.7%(昨年より7.3%増)
- (ク) 授業改善や若手教員の授業力向上を図るため、授業公開、校内研修、生徒による授業評価等を行った。「授業満足度」生徒89.6%(変化なし)、保護者79.7%(昨年より7.4%減)。ICTの効果的な活用を含め、今後も授業改善に取り組む。

イ 希望進路の実現への取り組み

- (ア) 進路指導部を中心に模試データ等の分析、一般入試受験生徒のケース分析を実施し、データに基づいた進路指導(進路面談)に取り組んだ。さらに、模試教科分析会を実施し、国数英の三教科における指導の課題や解決策について学校全体で検討した。「進路指導満足度」生徒92.5%(変化なし)、保護者75.5%(昨年度4.1%減)。今後も進路指導部を中心とした進路指導体制を充実させる。
- (イ) グラデュエーション・ポリシーやキャリア教育プログラムに基づき、進路指導部を中心に各学年と連携して統一感を持った計画的・組織的な進路指導を行った。
- (ウ) 進路に関する情報や模擬試験、英語検定に係る連絡などを整理の上、進路通信やTeams等を通して生徒・保護者にタイムリーに発信した。今後もスピード感のある情報提供に取

り組む。

(エ) 生徒の進路意識を高めるため、「人間と社会」や「総合的な探究の時間」を活用し、進路ガイダンスや模試事後指導、高大連携による出張講義やキャンパス訪問等を実施した。今後もキャリア教育年間計画に基づき、進路指導を充実させる。

(オ) 進学希望の生徒を支援するため、自習室の積極的な利用を推進した。自習室の活用についての利用時間は概算 2021 時間(昨年度 3286 時間)、満足度は 5 段階で 4.24(昨年度 4.18)であった。学級増の関係から自習室の場所が変更になった影響があったのか、利用時間は減少したが、自習室の環境整備を行い、満足度は上昇した。また、長期休業中の講習については、昨年度より大幅に増加し、41 講座に 1207 名(昨年度 29 講座に 788 名)が参加した。さらに、今年度も夏期・冬期休業中の校内勉強合宿(松塾)を実施し、1 年生の参加もあり、昨年度より大幅に増加した。夏期 8 日間で 3 年生 45 名、2 年生 12 名、1 年生 12 名(昨年度 3 年生 20 名、2 年生 9 名)、冬期二日間で 3 年生 17 名(昨年度 3 年生 5 名)の参加があった。「講習・補習の充実」生徒 83.1%(昨年より 1.1%増)、保護者 59.9%(昨年より 4.0%増)。今後も進学指導を充実させ、自ら学ぶ姿勢を育成していく。

(カ) 進路指導の充実を図るため、1・2 学年で学力診断テスト、3 学年で模試等を実施した。「松が谷は英検受験」が中学校にも認知されてきた。2・3 年生での英検全員受検と全教職員での実施体制により、英検準 2 級 118 名(昨年度 125 名)、2 級 84 名(同 123 名)、準 1 級 6 名(同 11 名)の合格があった。昨年度より各級に減少が見られるため、英検対策に工夫が必要である。

(キ) 学習、生活、進路等に関する生徒の情報共有化を図るため、拡大学年会(担任一教科担当連絡会)を実施した。また家庭との連携を図るため、三者面談期間を設定した。「三者面談の効果」生徒 87.4%(昨年より 1.4%増)、保護者 74.1%(昨年より 1.2%減)。三者面談を計画的にすすめ、保護者との連携を充実させる。

(ク)) 新しい大学入試制度や専門学校・就職指導の変化に対応するため、進路指導部と他分掌・教科が連携して、組織的に小論文指導などを行った。今後も職員全体で組織的な小論文指導に取り組む。

ウ 外国語の確実な習得への取り組み

(ア) 「Tokyo GE-NET EE 指定校」として、JET 2 名及び ALT 6 名を活用した英語による英語授業、ICT 等を活用した協働的学びにより英語 4 技能の着実な向上を図った。「英語教育充実度」生徒 93.5%(昨年より 5.5%増)、保護者 85.7%(昨年より 6.8%減)。今後も英語 4 技能の着実な向上に取り組む。

(イ) 英語 4 技能向上のため、4,000 冊以上ある図書館の英語多読図書を授業で活用し、英語版ビブリオバトル(書評合戦)を実施し、12 月には、別のテーマで 1・2 学年合同での英語プレゼン発表会を実施した。今後もプレゼンの機会を積極的に提供していく。

(ウ) 夏期休業中の 8 月 4 日(月)~8 月 11 日(月)までの 8 日間、希望者対象(24 名)にフィリピンでの語学研修を実施し、帰国後に校内で研修発表会も行った。また、今年度も、3 月 26 日(木)~3 月 28 日(土)の 3 日間、希望者対象(18 名)に Self-Discovery Challenge(英語による自分発見プログラム)を実施し、生徒の自己肯定感を高めていく。

(エ) 2・3 年生の実用英語技能検定の受検対策として、JET を活用した 2 次試験前の面接指導を充実させ、全教職員体制で学年別目標級の取得を目指した。

エ 国際理解教育及び国際交流の充実

(ア) 「海外学校間交流推進校」として、生徒が英語力を試したり、異文化を体験できる機会を増やすため、次世代リーダー育成道場への参加を推進した。また、生徒の海外派遣研修で 4 名の生徒がエジプトを訪問し、事前学習や事後報告会などに積極的に参加した。

(イ) 国際理解教育の推進のため、3 月にはテンプル大学のアメリカ人の先生を講師に招き、1・2 学年外国語コース生徒を対象に講演会を実施した。同じく 3 月に、1・2 学年全生徒を対象に、アーサー・ビナード氏(詩人・随筆家・翻訳家)を講師に招き、自分の将来

を考える体験にもつながる講演会を実施した。今後も国際理解講演会などを継続していく。
(ウ) 姉妹校となった韓国の高校とオンライン交流を行い、生徒の国際理解意識の向上や英語運用能力の育成を推進した。

オ 生活指導充実への取り組み

(ア) 全教職員でチャイム着席の励行やスマートフォンの使用等の授業規律の徹底を図った。身だしなみ指導として毎朝の立番指導や学期ごとに一斉指導週間を設けて全校体制で指導に当たる取組を進めた。今後も生活指導部と学年団が連携して身だしなみ指導を計画的に実施し、具体的な指導方法についても検討・改善しながら全校体制で指導に取り組む。

(イ) ①交通ルールの遵守②挨拶の励行③頭髪・身だしなみ等に関する校則の遵守④時間厳守⑤チャイム着席等の授業規律の確立、という5つの目標達成に向け指導を組織的に行った。「規範意識定着」生徒95.5%(変化なし)、教職員41.6%(昨年度より30.2%減)。生徒と教職員の認識に大きな差がある。生徒の自主性を尊重しながらも、よりの確かな生徒指導が必要である。

(ウ) 学期ごとに拡大生活指導部会を行い、日常的な指導方針等について協議した。盗難事故防止のため、全教員で当番制にして、毎時間、校内巡回を実施した。校則については生徒が主体的に考える機会を設定し、スカート丈についても安全面などの観点からも指導した。

(エ) 安全指導として、生徒の自転車損害賠償保険への加入を徹底し、自転車乗車時にはヘルメット着用を義務付けた。安全指導については、登下校時のマナーへの苦情や自転車事故、不審者被害などへの迅速な対応を心がけ、警察と連携しながら通学路の巡回を行うなど生徒の安全確保に努めた。今後もヘルメット着用についての指導を継続する。

(オ) 外部講師を招き、がん教育講話やデートDV予防啓発講話、セーフティ教室として薬物乱用防止講話やネット犯罪防止講話、インターネットトラブル防止講話、命の講話を実施し、自殺予防、ネット犯罪の被害・加害等の防止を図り生徒の意識喚起を行った。今後も生徒自身に考えさせるために、様々な講演会を企画していく。

カ 部活動の充実と体力の向上への取り組み

(ア) 全部活動27団体が大きな事故なく安全第一に活動を行った。アーチェリー部(全国大会出場)、陸上部(全国大会出場)、和太鼓部(全国大会出場)等の実績を残した。部活動加入率81.1%(変化なし)。今後も文武両道を目指し取り組む。

(イ) 「部活動ガイドライン」に則り、活動日や回数だけでなく、安全・安心な部活動を心がけた。「部活動満足度」生徒81.6%(昨年より1.9%増)、保護者76.7%(昨年より3.9%減)

(ウ) 部活動保護者会や各部活動のお便りを通して、計画的な部活動の実施と熱中症防止対策の徹底や体罰やセクシャル・ハラスメント等の根絶に向けた取組を周知し、活動の透明化を図った。今後も熱中症対策や怪我防止に取り組む。

(エ) すべての部活動で競技力の向上だけでなく、TOKYO ACTIVE PLAN for studentsに基づき体力向上を図った。

(オ) 松が谷小学校でのESS部生徒による英語授業、多くの運動部で中学生の体験入部などを実施し、地域との連携を図った。今後も継続していく。

キ 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成への取り組み

(ア) 4月にスクールカウンセラー(SC)による1年生全員面接を実施した。またSCを講師に教員対象の教育相談研修会を実施した。特別支援教育については地域拠点校と情報交換を行った。「教育相談の効果」生徒80.2%(変化なし)、保護者81.7%(変化なし)。今後もスクールカウンセラーの有効活用について検討していく。

(イ) 全学年対象にいじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ計3回実施し、気になる生徒には聞き取りを実施した。今後も校内における情報共有を徹底し、学校いじめ対策委員会を核に発生時の早期対応を心がける。「教育相談対応の満足」生徒88.9%(昨年より3.3%増)、保護者82.1%(昨年より3.9%減)

(ウ) 1年生全員を対象に、12月に性教育講演会、3月に自殺予防教育講演会として助産師

を招いた「命の講演会」を実施した。また、2年生全員を対象に、12月にがん教育講演会を実施した。今後も自殺予防に取り組む。

(エ) 「都立学校間交流教育」事業を通じて、地域の拠点校である南大沢学園との部活動交流を実施した。今後も発達障害等の生徒への対応を含め連携を充実させる。

(オ) 令和4年4月からの18歳成年制度を受け、公民科や家庭科の授業で契約など消費生活に関する基本的な知識や消費者として主体的に行動できる能力と態度を身に付ける指導を行った。

ク 環境・健康・安全教育の取り組み

(ア) 生徒会を中心に東柚木地域祭りに参加した。また、松が谷地区50周年の式典に、和太鼓部が全国大会の演奏をDVD動画鑑賞という形式で参加し、地域との交流を図った。今後も地域との交流を推進する。

(イ) 環境に関する意識を高めるために、全校体制で省エネに取り組み、生活指導部が主導してごみの分別指導の徹底等について環境委員を中心とした指導を行った。

(ウ) セーフティ教室及び避難訓練を全学年対象に実施し、安全教育・防災教育の充実を図った。「防災教育の効果」生徒90.5%(昨年より3.0%増)、教職員77.1%(昨年より12.4%減)。今後も生徒の防止意識を高める取り組みを継続する。

(エ) 痴漢・露出狂や不審者報告が複数回あり、南大沢警察署と連携して捜査協力を行った。生徒には引き続き「被害に会ったら110番」と注意喚起し、警察との情報共有をさらに強化する。

ケ 地域に根ざした学校づくりへの取り組み

(ア) 学校運営連絡協議会を年3回(6月・10月・2月)実施するとともに、地域の小学校1校及び中学校3校の学校運営協議会に参加し、地域からの要望や意見を反映した学校運営の透明化を図った。

(イ) 学校危機管理マニュアルを基に、今後も自然災害発生時や避難所としての対応、事故・事件発生時の対応や連絡体制を明確にした危機管理体制を地域と連携して構築する。

(ウ) 部活動指導員や外部指導員を有効活用し、教員の部活動指導における負担軽減を行った。今後も教員のライフ・ワーク・バランスの推進を一層図っていく。

(エ) 5日間の学校閉庁日を設定した。年次有給休暇の積極的な取得、残業上限が月45時間超過とならないよう注意・喚起を促し、教職員の心身の健康を守る学校づくりを進めた。今後も教職員のメンタルケアに取り組む。

コ 広報活動充実への取り組み

(ア) 8月の学校見学会(2日間)、10月と11月の学校説明会2回、7月の都立合同説明会、1月の個別相談会を実施した。昨年度同様に全体で3636名の参加があった。また、今年度から近隣の学習塾訪問を実施し、本校の特色などをPRすることができた。

(イ) 入学者選抜の最終倍率は、推薦に基づく選抜が普通科2.81、外国語コース2.08、学力検査に基づく選抜が普通科1.36、外国語コース1.38であった。私立高校の授業料も無償となり都立高校の倍率が大きく低下する中、普通科は昨年度同様の倍率を維持し、外国語コースは、推薦も学力検査も倍率が上昇した。今後も校内での学校説明会を充実させるとともに、外部での説明会などにも積極的に参加し、広報活動に取り組む。

(ウ) 外国語コース説明会を11月の学校説明会と一体化し、JETやALTとのTTによる体験授業や生徒の英語スピーチ発表を実施して外国語コースの特色を十分に伝える内容とした。今後も外国語コースの特徴などを、外部に積極的にアピールしていく。

(エ) 学習塾等を対象とした学校見学・説明会を実施し、本校の教育課程や進路指導の取組や学校行事・部活動の推進、外国語コースの特色などについてPRした。

(オ) ホームページの更新を計467回以上(昨年度320回)行った。「教育活動PR達成」生徒77.2%(変化なし)、地域50.0%。今後もタイムリーな話題や部活動情報等の更新を頻繁に行うなど、本校の教育活動を分かりやすく、迅速かつ正確に発信する。

サ 経営企画室の経営参画の推進

- (ア) 経営参画ガイドラインに基づき、経営企画室と教員との連携を強化して業務を遂行した。
また教育庁関係部署等との調整等により経営参画を推進し、各課題の解決を図った。
- (イ) 次年度の自律経営予算についてヒアリング等を通じて教員と意識を共有し、計画的・適正な編成を行った。また増学級対応を含め、臨機応変かつ効率的な予算執行に努めた。
- (ウ) 入学者選抜においてのインターネット出願事務や個人情報管理、会計事故防止等について教員との連携も円滑に進めた。
- (エ) 生徒の生命、身体に関わる事故を未然に防止するため、教員と連携しながら日常的な施設、設備の点検を実施し、連絡調整や修理等速やかな対応を行った。

2 数値目標

内 容	目 標	達 成 度
学校評価アンケート 本校満足度	90%以上	今年度 生徒 96% 保護者 94%
自宅学習時間（授業以外で自習する） の確保	毎日1時間以上を 80%以上	今年度 31%
学校評価アンケート 授業満足度	85%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 今年度 90%
読書活動の推進 ビブリオバトル含む読書の意欲	90%以上	生徒の肯定的割合 今年度 90%
英語検定 準1級、2級、準2級取得者数	準1級 5名以上 2級 100名以上 準2級150名以上	今年度 準1級 6名 今年度 2級 84名 今年度 準2級 118名
英語教育の充実度	90%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 今年度 94%
進路決定率	90%以上	今年度 89%
長期休業中の講座数 講習・補習の参加人数	40講座 1600名以上	今年度 41講座1207名
国公立・難関私立大（早慶上理）現役合格者数	5名以上	今年度 5名
GARCH現役合格者数	30名以上	今年度 21名
中堅私大（日東駒専）現役合格者数	80名以上	今年度 68名
学校評価アンケート 部活動満足度	80%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 今年度 82%
学校見学会、説明会等 参加者数	3000名以上	見学会、説明会、入学相談会の 合計 今年度 3636名
ホームページの更新回数	200回以上	今年度 467回